

佳作

ボランティアで出会った「今田さん」

兵庫県神戸市立神港橋高等学校二年 新治 ひかる

私は、地域のゴミ出しボランティアの活動に参加している。高齢者の方で、ゴミ出しがしんどい方のお家へ伺い、百円と引き換えにゴミ出しをするというボランティアだ。私はこのボランティア活動を通して、今まで以上に地域の人と交流できるようになった。また、高齢者の生活を少しでも援助することができるのは、大人だけでなく、子どもでもできるということを学んだ。だからこそ、ボランティア活動がもっと多くの人に親しまれ、社会全体で明るい社会を作っていくべきだと、私は思う。

私が地域のゴミ出しボランティアの活動を知ったのは、小学校六年生の時だ。いつも投函されているチラシの中に、ゴミ出しボランティアのチラシが入っていたのを、母が偶然見つけたのがきっかけだ。私は、ボランティアの話をお母さんから聞いた時、「ゴミを出すだけで百円が貰えるなら、やってみてもいいかな」と、初めはボランティア活動の意識ではなく、お金目当てで、全くボランティアの活動の意味ということを理解していなかった。しか

し、今ではボランティア活動の意味や大切さを理解することができ、地域の方と交流することが楽しく、ボランティア活動をして良かったと思えている。

私が、初めてゴミ出しボランティアをした時に出会った人が、今田さんという人だ。今田さんは、九十二歳で一人暮らしをしているすごく元気な方である。ゴミが重たいから手伝ってほしいという要望で、ボランティアに行かせてもらった。今田さんは、初めて会った日から緊張していた私に、たくさん話して下さったり、家へ上がらせてもらったり、私の緊張を解き放つかのように優しく接して下さった。今田さんには、ボランティア活動をしに行くたびに、たくさんのことを教わった。教師時代のお話を聞かせてもらったり、絵の書き方を教わったり、一緒にケーキやプリンなどを作ったりもした。現在は、ゴミ出しのボランティアには行っておらず、半年に一回程度町で見かけるぐらいになってしまった。ただ、「今田さん元気にしているかな、困っていることはないのだろうか」と家族で心配することは多々ある。だから私はこの夏休み、二年ぶりに妹と一緒に今田さんに会いに行った。

久しぶりに今田さんへ電話をし、お家に遊びに行かせてもらった。久しぶりに会った今田さんは、九十四歳になった今でも変わらず元気にしていた。玄関へ行くと、今田さんが笑顔でドアの前で待っておられて、

「大きくなったね。随分大人になって。」

と少し寂しげに言って出迎えて下さった。そして二年前に教わった作り方で作ったチョコケーキをプレゼントすると、とても喜んでくれた。それから半日間、私たちは今田さんと一緒に楽しく過ごした。二年前に遊ばせてもらった時と同様、絵の書き方を教わったり習字をしたり、お話ししたりするなど、たくさん遊ばせてもらった。帰る時間が近づくと、

「今日は本当に楽しかった。ありがとね。本当にありがとね。本当に楽しかったよ。」

と涙を流して私たちに言って下さった。遊ばせてもらっただけなのに、泣いて喜んで下さって本当に嬉しかったと同時に、もっと早く遊びに来てあげたらよかったなと思った。本音を言えば、もっと今田さんと過ごしたかったけれど、

「今日はありがとうございました。私たちも本当に楽しかったです。また必ず遊びに来るので、元気でいて下さいね。」

と今田さんと約束の握手をして、お別れした。

私は、ゴミ出しボランティアの活動を経験して、他のボランティアをしてみたいと思ったと同時に、小さい子どもたちにもボランティアを経験して、楽しさを知ってほしいと思った。だからこそ、今まで以上にボランティア活動を身近に感じられる取り組みをするべきだと、私

は思った。そのために、ボランティア活動をしてみたいと思える環境を作り、身近にボランティアをしているところがある事を知ってもらえるよう、チラシの配布や、駅や学校などでポスターを貼るなど、多くの人に見てもらえるようにする事が大事だと思った。

自ら経験したボランティア活動を通して、もっと日本が優しく明るい社会になってほしいと感じた。今日、ボランティア活動は必須である。だから、大人だけでなく、子どもたちまでが楽しんでボランティア活動を行える場を作り、それらをたくさんの方に知ってもらえるように工夫することが大事である。これらのボランティア活動を通して、多くの方を援助することが、これからの明るい社会につながると思う。そしてこれからも私は、ゴミ出しボランティアや他のボランティアに積極的に活動していくことと共に、今田さんとずっと交流し続けたい。